

H23, 5.20

北川ダム死水活用へ

延岡

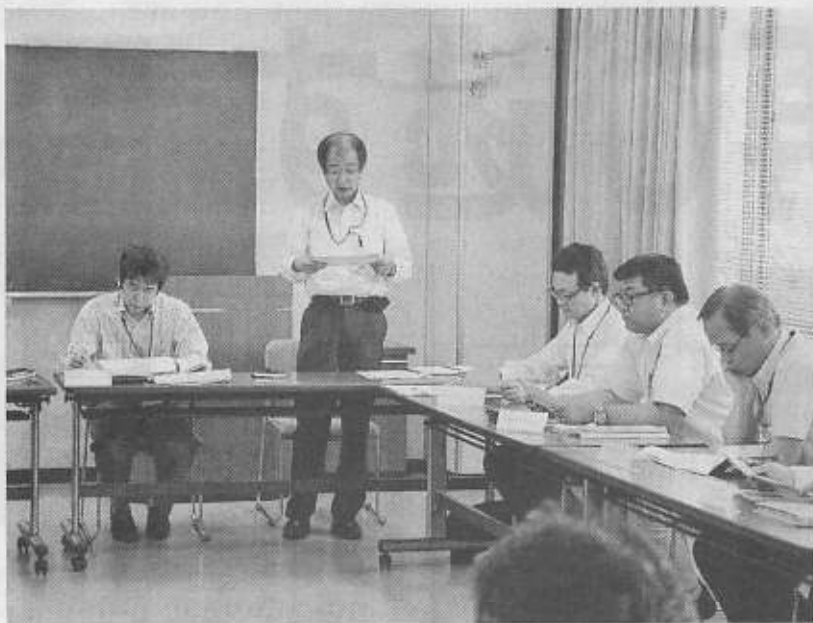
宮日

会 議
会 議
議 議

水生生物の成育懸念

少雨の影響に伴う「北川」における濁水に関する調整会議

延岡河川国道事務所であった。



市や大分県の職員ら約20人が出席。水生生物の保護などのため、北川ダムの死水を活用することで、下流に位置する下赤ダムの放流量を増やすことを確認した。20日には、1・0立方メートル毎秒の放流量を1・7立方メートル毎秒に増やす予定。

会議では、市職員が北川流域における水稻の田植えシーズンに必要な水量について説明。一方、ダムを管理する大分県の職員は、北川ダムでも水位が低下し、6日以降発電を停止している状況を報告した。その上で、下赤ダムへの死水の補給量や、放流量を維持できる日数を示した。

出席者からは「ダムの放流量を微調整できないか」「濁

北川ダムの死水活用について議論する関係機関職員ら

水が発生する恐れはないのか」など次々と質問。これに対し、担当者は「ダムの構造上、細かな調節は難しい」「死水の水位が低下すれば、濁水が発生する可能性もある」などと答えていた。

少雨による河川の水位低下で、北川では水生生物の成育不足などへの悪影響が懸念されている。